

4 公開授業について

児童生徒の体力向上を図るため、体育・保健体育の公開授業を小学校1校、中学校1校で実施し、体力向上推進委員による授業の視察及び指導、助言を行うとともに、体力向上推進委員会による提言の周知・啓発活動を併せて行いました。

(1) 小学校における公開授業（長洲町立六栄小学校における実践：H30，11，29）

① 領域 第5学年「ボール運動」～ゴール型：バスケットボール～

② 本時の授業

○ 目標 パスを受けることのできる場所に移動することができる。

<体力向上のための取組との関連>…運動の仕方や動き方など、なかなか自分では気づかないところを、友達同士で見せ合ったり教え合ったりしていくことで、苦手意識を少しずつ克服し、より運動に親しもうとする姿が期待できます。

○ 展開等

過程	学習活動	指導上の留意点	授業の様子等
導入	1 学習の見通しをもつ。 2 準備運動をする。	○ 前時の学習の振り返りを行い、本時の見通しを持たせる。	うまくパスをつないでシュートができたよ。
課題解決	3 本時の学習課題をつかむ。	ボールを受けやすい場所でパスをもらおう。	
	4 課題解決の活動を行う。 ① ドリルゲーム ○ 3対0のゲーム ② タスクゲーム ○ 3対1のゲーム ③ メインゲーム ○ 作戦タイム ○ 3対2のゲーム ○ 課題解決情報の共有	○ 動きを例示しながら、課題をつかませる。 ○ ディフェンスのない状態で、基本的な動きをつかませる。 ○ 相手のいないところでボールをもらう動きを身に付けさせる。 ○ 作戦ボードを使い、視覚的に作戦を確認し合う。 ○ うまくいかない時に助言し、良いプレーが出たら紹介する。	こう動くとパスを受けることができます。
整理	5 学習のまとめ・振り返り 6 整理運動・後片付け	○ 図で示しながら、本時の学びについて振り返らせる。	「動き方が分かって楽しかった。」等の感想が多く聞かれました

③ 成果と課題（○：成果、▲：課題）

○ 戦術学習を核として教師の指導内容の明確化、子供の実態から共通課題の設定による目標の明確化、関わり合いの設定、苦手意識を持たせない個に応じた指導、学習カードを活用した振り返りの活動及び学習活動を基に時事の活動に生かすといった、正にPDCAサイクルが毎時間なされていました。

○ 全員で得点を取るための作戦が立てられ、実践が行われていました。

▲ バスケットボールの特性の一つである「ボールをうまく運ぶ楽しさ」を子供たちに十分に味わわせていけば、ゲーム（ドリルゲーム→タスクゲーム→メインゲーム）をより楽しみながら意欲的に進めることができたのではないかと考えられます。

▲ 児童が積極的に関わり合うための教師による「しかけ」を、いろいろな場面で設定していけば、教師の願い（空いたところに動く）と子供の思い（得点を競い合いたい）の意識のズレを改善することができると考えられます。

(2) 中学校における公開授業（山鹿市立鹿本中学校における実践：H30，12，5）


① 領域 第3学年「陸上競技」～長距離走～

② 本時の授業

- 目標 自分のペースや力で練習に取り組み、自己のタイムを向上させることができる。

<体力向上のための取組との関連>…長距離を走るための自分のペースをつかみ、自己の目標を設定し、達成に向けて走る楽しさを味わい、日常的にも「時間を見付けて走ってみよう」といった意欲の向上につながることを期待されます。

○ 展開等

過程	学習活動	指導上の留意点	授業の様子等
導入	1 健康観察を行う	○ 体調不良者がいないか確認する。 自分が設定した目標タイムで走ることができる。	男子3000m、女子2000mで設定されました。
	2 本時のめあてを知り、活動内容を確認する。		
	3 準備運動を行う。	○ ラジオ体操・補強運動・ランニングを行う。	ペースメーカーの声かけでグループのペースを意識。
展開	4 同じペースのグループで200mのペースインターバルを行う。	○ ペースがつかめていない生徒には声かけ、個別指導を行う。 ○ 本時のめあてについて、再度確認させる。 ○ ペースインターバルの走りを意識して、ペースをつかむ声かけや個別指導を行う。	
	5 評価項目と活動内容を確認する。		
まとめ	6 ペース走をする。 (男子3000m、女子2000m)		
	7 本時のまとめを行い、次時の学習について知る	○ 課題やアドバイスポイントを見付け、次時への意識付けをする。	なかなかいいペースだよ。その調子をキープしよう。

③ 成果と課題（○：成果、▲：課題）

- 生徒一人一人が運動種目に対して高い意欲（意識）をもって学習に臨んでいました。明確な共通目標や目指すべきラップタイムが能力ごとに示されており、個々の目標にもつながるため、生徒がやる気を喚起、充足させながら取り組むことができるような学習形態となっていました。
- 集団行動訓練がしっかりとしているため、マネジメントにかかる時間が短時間で済み、運動量の確保につながっていました。また、単元計画を掲示することで生徒自身が見通しをもって学習を進めることができていました。
- ▲ お互いが意識して見合う視点（力みのないフォーム、リズムカルな腕振り、呼吸法等の共通課題）を明確に示し、それを評価する観察場面が設定されると、生徒同士が関わり合う必然性が出てくると考えられます。
- ▲ 授業後の感想の中に「ペースが速くなってしまった」「ペースをつかんで走っていない」といった記述がありました。走りながら自分のラップタイムを周回ごとに確認できる計測表示ができると、ペースがつかめない生徒に対して、自己のペース配分を理解でき、走りながら調整できるようになるのではないかと考えられます。